

「今年も花粉症、キツイなく」。まったくもってこのアレルギーは厄介なシロモノ。とはいっても、なかなか薬なども効かないし……。そこで編集部が全国の「名医」と呼ばれるお医者さんを徹底調査。加えて最先端の治療法も聞いてみた!

「また今年もダメだったか」とお嘆きの貴兄に贈る 悩み深き人よ、駆け込め! 花粉症の名医

50人

舌下免疫療法 大久保公裕先生 日本医科大学付属病院

根治を目指して効果の持続する治療をしていく

花粉症治療の第一人者として知られる、大久保公裕先生が、現在、取り組んでいるのが「舌下免疫療法」だ。

「一般的な医院でおこなわれる投薬療法は、あくまでも花粉症の症状を一時的に抑える対症療法のひとつ。免疫療法は根治を目指してその後も効果を持続させるもので、たとえば、いままでは体に入ってきた10個の花粉に対して症状が出ていたものを、50個から100個まで花粉が入ってきてても耐えられる体にしていく」といふ考えなんです。

治療は少量のスギ花粉エキスを舌の下に

垂らして、2分間待つだけ。通院も段階を経て徐々に減っていく、自宅でもできるのが利点だ。これを2年間毎日継続したことで症状が軽くなるか、まったくなくなったという人が7割を超えたという、期待の最新治療なのだ。しかも、14年には保険適用になる見通しだという。

同院ではほかに、フォトセラピー（光線治療）という治療法もおこなわれている。「鼻の粘膜に紫外線を多く含む光線を照射して、アレルギーを悪化させる細胞を減らす方法です。1週間に1〜2回通院が必要

ですが、レーザーなどに比べて痛みや副作用が少ないことが利点です」

こちらは、対症療法のひとつで、費用は3週間の全治療で約1万円とのこと。

「花粉症は、死ぬような病気ではないから、薬で抑えるのが根治を目指すのか、結局は自分がどうしたいかが問題。ただし、花粉症が根治したという人が増えれば、日本の医療経済においても非常に意味がある。国民の25割といわれる花粉症患者の医療費高騰を抑制するためにも、薬で抑え込むだけではなく、いまとは違う方法論で、治っている」といふ患者さんを作っていくことが重要なんです」

「花粉症は30〜50代が最も多い。ほかのアレルギーと違って、スギ花粉は1年間で3カ月しかないのに、発症が少し遅いんです」（大久保先生）

働き盛りの世代を直撃する花粉症。戦後植林されたスギの花粉量は年々増加し、症状も深刻化しているという。

「花粉症のシーズンは年度末から年度初めの2月から4月。労働生産性の低下も危惧されており、いまは国家的に対策に取り組んでいるようです」（同）

いつの間にか国家をも蝕む病いになりつつある花粉症。我々は、いったいどのように向き合っていけばいいのか。

「症状が出たら、一度は正しい診断を受けてください。アレルギーは、徐々に進行していくものなので、放っておけば悪化する一方。重症化する前に自分の体が何に反応しているのかを、調べる必要があります」（同）

スギ花粉の飛散は30年まで増加していくと予測されている。今回紹介した最新治療も含め、自分のライフスタイルに合わせた花粉症との付き合い方を、そろそろ探してみてもいいころだ。



舌下免疫療法は舌の下にスギ花粉エキスを垂らすだけ。簡単に効果を期待できる



東京都文京区千駄木1-1-5
☎03-3822-2131

アレルギーを悪化させる細胞を減らすフォトセラピーも効果的な治療法

花粉症ボトックス

高瀬聡子先生

ウオブクリニック中目黒

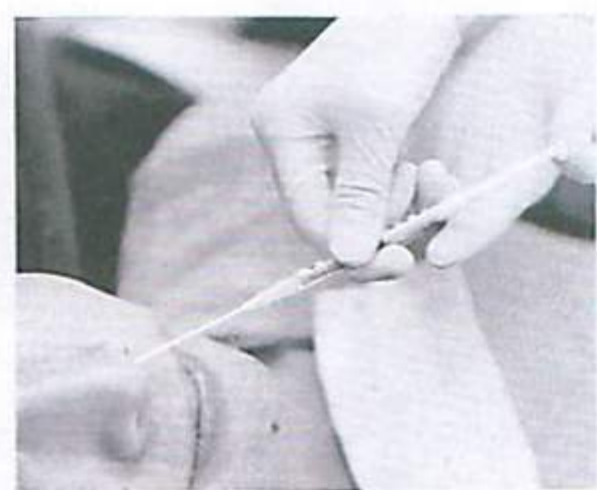
粘膜から副交感神経を麻痺させて症状を抑える



「この治療のメリットとしては負担が少なく、副作用といわれるようなものがないこと。飲み薬のように眠くなるということもまずありません。去年ぐらいから花粉症対策の施術として注目されるようになった治療法です。ただ、長期的に持続して施術する

高瀬先生のクリニックで、快適に症状が抑えられると好評なのがボトックス施術だ。もともとは美容面でのしわ伸ばしのための施術として知られる。

「この治療のメリットとしては負担が少なく、副作用といわれるようなものがないこと。飲み薬のように眠くなるということもまずありません。去年ぐらいから花粉症対策の施術として注目されるようになった治療法です。ただ、長期的に持続して施術する



早い人だとその日から。遅くとも1、2日くらいして症状が治まってくる

東京都目黒区中目黒1-10-23シティホームズ中目黒 アネックス2F ☎0120-411-281

高周波ラジオ波

大場俊彦先生

慶友銀座クリニック

鼻の中でふくれている部分を減らす「減量手術」



大場先生がおこなう手術療法は、高周波ラジオ波治療と、CO₂レーザー治療。それぞれ日帰りで手術が可能。患者さんの状態を見ながら段階的に進めていくそうだ。「簡単に言えばですが、鼻の中でアレルギーに反応してふくれている部分を減らす

「減量手術」になります。高周波ラジオ波は針を刺して熱で縮める、レーザーは表面を焼いてかさぶたを取るといった違いがあります。どちらにも機器と術者の技術の発達で、いまはほとんど痛みを感じないと思います。これらの手術によって、鼻づまりをかなり軽減できるという。ちなみにお値段はそれぞれ保険診療（3割負担）でレーザー手術が1万円程度、高周波ラジオ波が8千円程度。効果の持続性は人によって異なるが、一般的には数年程度である。

「どの治療がその人に合うかは、鼻の状態や形、粘膜の状態など人によってさまざま。専門の先生に診てもらって治療方法を選んでください」

高周波ラジオ波の手術の様子。鼻の中の腫れた部分を小さくする手術だ



東京都中央区築地1-13-11高橋ビル2F ☎03-3542-3387

花粉症ウソ・ホント

晴れた日が続くと花粉の量が多くなる

答えは×。花粉が多くなるのは、前日が雨だった日で、天気が回復して南風が吹き、気温が上がる日。正午と、午後6時ごろが危険。雨により地面に落ちた花粉が乾いて、一度に大量に空気中に舞うため。また、雨がやんで花が開き、雨の日に飛ばさなかった2日分の花粉を飛ばすので、花粉量が増すから。

目が痒いなら、風邪じゃなくて花粉症を疑え

答えは○。くしゃみや鼻水など、風邪の症状とよく似ていて間違えやすい花粉症。風邪で目の症状が出ることはないが、花粉症では、まぶたの裏側の結膜にアレルギーが生じ、痒くなる人が多い。

風邪と花粉症では鼻水の色が違うことが多い

答えは○。花粉症の鼻水の特徴は、サラサラしていて無色透明なこと。風邪も最初は無色透明だが、次第に白血球などの細胞が出てくるため、ネバネバして白くなったり、黄色く変わることがある。

花粉症の人が避けるべき服の素材はウールである

答えは○。ナイロンやポリエステルなどの素材で、すべすべし、ツルツルした生地の服を着ると花粉が付着しにくく、しかも落ちやすい。ウールなどの衣類は花粉が付きやすいうえに、叩いても落ちにくいので避ける。

目薬をさした後は、目をパチパチするとい

答えは×。目薬をさした後は目を閉じて、しばらく目を軽く押さえておく、というのが正しい方法。目薬には鼻涙管という、涙を鼻のどに流す管があるので、そこを軽く押さえることで、せつかくさした目薬が鼻のどに流れていってしまうのを防ぐのだ。目をパチパチさせるのは、目をパチパチさせる

※次ページに続く